

2 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要

○2009/10年度の小麦需給（予測）のポイント

小麦の供給面では、世界的に増産となった前年度より収穫面積が減少することなどから、世界的な生産量の減少が見込まれている。

需要面では、堅調な食料用需要の増加が、飼料用需要の減少を上回り、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、2年連続して生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われ、期末在庫率も上昇し、世界の小麦需給は緩和すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、豊作であった前年度と比較して、市場価格の低下や経済の減退による影響から収穫面積が減少すること等から、インド、中国、豪州では増産となるものの、EU、米国、カナダ、ロシア等で減産となり、世界全体では前年度より8.1百万トン減少（▲1.2%）し、673.9百万トンとなる見込みである。なお、前月の予測からの改訂は、世界全体では、2.0百万トン上方修正されており、国別には、カナダ、EUで上方修正、豪州で下方修正された。

【消費量】

消費量は、米国等では減少するものの、食料用需要を中心にインド、ロシア等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より7.4百万トン増加（1.2%）し、646.7万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体では1.6百万トン下方修正されており、国別には、EU、インド、米国で下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、17.6百万トン減少（▲12.4%）し、124.7百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では豪州等で輸出量が増加するものの、EU、ウクライナ、米国、アルゼンチン等で輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、ブラジル、インドネシア、日本で輸入量の増加、モロッコ、エジプト、EU等で輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.6百万トン下方修正されており、国別には、輸出国では、カナダで上方修正、豪州で下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、2年連続で生産量が消費量を上回ることから、中国、米国、インド等で大きく積み増しされ、世界全体では前年度より27.1百万トン増加（16.6%）し、190.9百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も29.5%と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で、2.6百万トン上方修正されており、国別には、カナダ、EU、インド等上方修正、豪州で下方修正された。

表－1 世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	610.4	682.0	673.9	2.0	▲1.2
EU-27	120.1	151.1	138.3	0.3	▲8.4
中国	109.3	112.5	114.5	-	1.8
インド	75.8	78.6	80.6	-	2.5
ロシア	49.4	63.7	59.5	-	▲6.6
米国	55.8	68.0	60.3	-	▲11.3
カナダ	20.1	28.6	26.5	2.5	▲7.4
豪州	13.6	20.9	22.5	▲1.0	7.5
消費量	617.0	639.3	646.7	▲1.6	1.2
うち飼料用	96.3	112.7	111.2	▲0.8	▲1.4
EU-27	116.5	127.5	127.0	▲1.0	▲0.4
中国	106.0	102.5	102.0	-	▲0.5
インド	76.4	70.8	76.1	▲0.8	7.6
ロシア	37.7	38.9	40.7	-	4.6
米国	28.6	34.3	32.9	▲0.4	▲4.1
パキスタン	22.4	22.8	23.3	-	2.2
トルコ	16.8	16.9	17.3	-	2.4
貿易量	117.2	142.3	124.7	▲0.6	▲12.4
(輸出)					
米国	34.4	27.6	23.8	-	▲13.9
EU-27	12.3	25.4	19.0	-	▲25.2
カナダ	16.1	18.8	18.5	0.5	▲1.6
ロシア	12.6	18.4	18.0	-	▲2.1
豪州	7.5	14.8	15.0	▲0.5	1.4
ウクライナ	1.2	13.0	9.0	-	▲31.0
アルゼンチン	11.2	6.0	2.5	-	▲58.3
(輸入)					
エジプト	7.7	9.9	8.3	-	▲16.2
EU-27	6.9	7.7	7.0	-	▲9.6
ブラジル	6.7	6.0	6.5	-	8.3
インドネシア	5.2	5.4	5.5	-	1.4
日本	5.7	5.2	5.3	-	2.8
アルジェリア	5.9	6.4	5.3	-	▲16.7
モロッコ	4.2	3.8	1.8	-	▲52.1
期末在庫量	121.0	163.8	190.9	2.6	16.6
中国	39.0	48.7	60.6	0.5	24.4
EU-27	12.3	18.3	17.6	1.3	▲3.6
米国	8.3	17.9	24.5	0.4	37.0
インド	5.8	13.5	18.1	1.0	33.3
ロシア	1.8	8.4	9.4	-	11.9
カナダ	4.4	6.6	7.7	1.8	16.8
豪州	3.7	3.1	3.5	▲1.3	15.3
期末在庫率	19.6%	25.6%	29.5%	0.5	3.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、豊作であった前年度より収穫面積、単収とも減少するため、7.7百万トン減少(▲11.3%)し、60.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、食料用需要の増加が飼料用需要の減少を下回ると見込まれることから前年度より1.4百万トン減少(▲4.1%)し、32.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少等から3.8百万トン減少(▲13.9%)し、23.8百万トンとなる見込みである。

この結果、前年度大幅に増加した期末在庫量は、さらに6.6百万トン増加(37.0%)し、24.5百万トンとなり、期末在庫率は43.2%(14.3ポイント増)となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、今年度産の小麦の製粉歩留まりの向上見通しから消費量が0.4百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量は0.4百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦の収穫は8月に終了した。作柄については、オクラホマ州、テキサス州等で生育期の1月から3月の干ばつにより、冬小麦の作柄に影響があったが、その他の地域については、良好であった。また、収穫面積は、前年度より2.0百万ヘクタール減少(▲12.9%)し、14.0百万ヘクタールとなっており、生産量は、前年度より9.4百万トン減少(▲18.5%)し、41.4百万トンとなった。

2009/10年度の春小麦については、雨がちな天候からノースダコタ州等で作付けが遅れたことから、9月末から10月始めにかけてようやく収穫が終了した。デュラムを含む収穫面積は、前年度より0.3百万ヘクタール減少(▲4.4%)し、6.3百万ヘクタールであったが、単収が前年度より良好であったため、生産量は前年度より1.7百万トン増加(9.8%)し、18.9百万トンと見込まれている。

2010/11年度の冬小麦の作付けは、とうもろこしや大豆の生産地域を中心に収穫作業の遅れ等により、遅れて終了した。発芽率は、12月6日現在、93%で、平年より遅れている。

作柄については、12月6日現在で優良～良が63%と前年度最終(47%)を上回っている。

我が国の輸入先国シェア1位(2008年数量ベース63.3%)
世界の生産量シェア 4位(2009/10年度 9.0%)
輸出量シェア 1位(2009/10年度 19.1%)

表-2 米国の小麦需給(市場年度:6月～翌年5月)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.8	68.0	60.3	-	▲11.3
消費量	28.6	34.3	32.9	▲0.4	▲4.1
うち飼料用	0.4	7.0	5.2	-	▲26.5
輸出量	34.4	27.6	23.8	-	▲13.9
輸入量	3.1	3.5	3.0	-	▲13.6
期末在庫量	8.3	17.9	24.5	0.4	37.0
期末在庫率	13.2%	28.9%	43.2%	1.0	14.3

(参考)
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米國小麦の生育進捗及び作柄

[生育進捗状況(2010/11年度冬小麦:主要18州)]
(12月6日現在)

発芽率 93%

[作柄(2010/11年度冬小麦:主要18州)]
(12月6日現在)

		単位:%				
		優良	良	普通	不良	極不良
冬小麦 (2009/12/6)	2010/11	13	50	31	5	1
	前年度同時期	-	-	-	-	-
	前年度最終	11	36	26	14	13

注:優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料:USDA「Crop Progress」

注:冬小麦の12月6日の公表値に前年度同時期のデータは含まれていない。

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、収穫面積は前年度より減少し、豊作であった前年度と比べて産地の乾燥等により単収が減少することから、2.1百万トン減少（▲7.4%）し、26.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少から前年度より0.7百万トン減少（▲9.1%）し、7.3百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.3百万トン減少（▲1.6%）し、18.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、生産量が消費量と輸出量の計を上回るため、前年度より1.1百万トン増加（16.8%）し、7.7百万トンとなり、期末在庫率は、29.7%（5.2ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、カナダ統計局の平原三州の単収の上方修正により、生産量が2.5百万トン上方修正された。また、消費量が0.2百万トン、輸出量が0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量は1.8百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の収穫は、サスカチュワン州等での降雨や霜により遅れ、11月中旬に概ね終了した。

ウ 豪州

【需給状況】

豪州の生産量は、前年度に引き続いて増産となり、1.6百万トン増加（7.4%）し、22.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加等から前年度より0.2百万トン増加（3.6%）し、7.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加から0.2百万トン増加（1.4%）し、15.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.4百万トン増加（15.3%）し、3.5百万トンと積み増しされ、期末在庫率は16.0%（1.8ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2007/08年度及び2008/09年度の生産量がそれぞれ、0.3百万トン、0.6百万トン下方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量が0.9百万トン下方修正された。また、2009/10年度の生産量がクイーンズランド州やニューサウスウェールズ州の減産等により1.0百万トン下方修正され、輸出量が0.5百万トン下方修正された。その結果、期末在庫量が1.3百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦については、各地で収穫が開始された。クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州では、生育期の降雨が少なかったため、また、西豪州は収穫期の降雨の被害等により前年度より生産量は減少するが、豪州南東部では生育期に適した降雨があったため、生産量が増加する見込みである。

我が国の輸入先国シェア 2位（2008年数量ベース20.4%）
世界の生産量シェア 6位（2009/10年度 3.9%）
輸出量シェア 3位（2009/10年度 14.8%）

表-3 カナダの小麦需給（市場年度：8月～翌年7月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	20.1	28.6	26.5 (26.5)	2.5	▲ 7.4	
消費量	6.8	8.0	7.3 (8.1)	0.2	▲ 9.1	
うち飼料用	2.2	3.2	2.4 (3.2)	0.2	▲ 25.2	
輸出量	16.1	18.8	18.5 (18.0)	0.5	▲ 1.6	
輸入量	0.4	0.4	0.4 (0.1)	-	5.3	
期末在庫量	4.4	6.6	7.7 (7.0)	1.8	16.8	
期末在庫率	19.2%	24.4%	29.7% (26.8%)	6.3	5.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	8.64	10.03	9.50 (9.54)	▲ 0.20	▲ 5.3	
単収(t/ha)	2.32	2.85	2.79 (2.78)	0.32	▲ 2.1	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
AAFC 「Grain and Oilseeds Outlook (15 December 2009)」

我が国の輸入先国シェア 3位（2008年数量ベース16.1%）
世界の生産量シェア 8位（2009/10年度 3.3%）
輸出量シェア 5位（2009/10年度 12.0%）

表-4 豪州の小麦需給（市場年度：10月～翌年9月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	13.6	20.9	22.5 (22.0)	▲ 1.0	7.4	
消費量	6.5	6.9	7.1 (7.0)	-	3.6	
うち飼料用	3.5	3.8	4.0 (3.8)	-	6.7	
輸出量	7.5	14.8	15.0 (15.1)	▲ 0.5	1.4	
輸入量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	▲ 38.5	
期末在庫量	3.7	3.1	3.5 (…)	▲ 1.3	15.3	
期末在庫率	26.1%	14.2%	16.0% (…)	▲ 5.5	1.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	12.58	13.15	13.80 (13.79)	0.30	4.9	
単収(t/ha)	1.08	1.59	1.63 (1.60)	▲ 0.11	2.5	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
ABARE 「Australian crop report (8 December 2009)」(※ABAREは作付面積)

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、過去最高の生産量であった前年度と比較して、東欧やスペインの乾燥により、単収が低下することや、油糧種子への転換等から収穫面積が減少すると見られ、前年度より12.8百万トン減少（▲8.4%）し、138.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン減少（▲0.4%）し、127.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少等から6.4百万トン減少（▲25.2%）し、19.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.7百万トン減少（▲3.7%）し、17.6百万トンとなり、期末在庫率も12.1%（0.1ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、単収が上方修正されたことにより生産量が0.3百万トン上方修正され、消費量が1.0百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量は1.3百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の収穫は終了した。東欧では生育期の乾燥により減産となる見込みである。

2010/11年度の冬小麦の作付けが終了した。スペイン等を除いて、降雨が多かったため一部地域で作付けが遅れたが、気温が平年より高かったため、生育に適した条件となっている。

【貿易情報】

穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入した。

オ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、単収及び収穫面積がわずかに増加することから、前年度より2.0百万トン増加（1.8%）し、114.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン減少（▲0.5%）し、102.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.3百万トン増加（38.9%）し、1.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.1百万トン減少（▲16.7%）し、0.4百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は11.9百万トン増加（24.4%）し60.6百万トンとなり、期末在庫率も58.8%（11.7ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、輸出量が0.5百万トン下方修正された結果、期末在庫量が0.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2010/11年度の小麦の作付けは11月中旬に概ね終了した。農家の作付け意欲を高めるため、政府の価格支持を目的とした買上政策が継続されたことから、作付面積はわずかに増加すると見込まれている。作柄は、降雪により作付けが遅れたほ場では被害が生じているものの、土壌水分は改善されている。

【貿易情報】

2007年12月に輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を賦課していたが、輸出税については2009年7月1日に撤廃された。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

世界の生産量シェア1位（2009/10年度 20.5%）
輸出量シェア2位（2009/10年度 15.2%）

表-5 EU-27の小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.1	151.1	138.3 (138.3)	0.3	▲ 8.4
消費量	116.5	127.5	127.0 (126.0)	▲ 1.0	▲ 0.4
うち飼料用	52.4	61.0	59.0 (53.5)	▲ 1.0	▲ 3.3
輸出量	12.3	25.4	19.0 (19.7)	-	▲ 25.2
輸入量	6.9	7.7	7.0 (7.0)	-	▲ 9.6
期末在庫量	12.3	18.3	17.6 (16.8)	1.3	▲ 3.7
期末在庫率	9.6%	11.9%	12.1% (11.5%)	1.0	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.71	26.69	25.44 (…)	-	▲ 4.7
単収(t/ha)	4.86	5.66	5.44 (…)	0.02	▲ 3.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (26 November 2009)」

（世界の生産量シェア2位（2009/10年度 17.0%））

表-6 中国の小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	109.3	112.5	114.5 (114.0)	-	1.8
消費量	106.0	102.5	102.0 (…)	-	▲ 0.5
うち飼料用	8.0	5.0	5.0 (…)	-	0.0
輸出量	2.8	0.7	1.0 (0.2)	▲ 0.5	38.9
輸入量	0.1	0.5	0.4 (0.3)	-	▲ 16.7
期末在庫量	39.0	48.7	60.6 (…)	0.5	24.4
期末在庫率	35.8%	47.2%	58.8% (…)	0.7	11.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.72	23.62	24.00 (23.50)	▲ 0.30	1.6
単収(t/ha)	4.61	4.76	4.77 (4.85)	0.06	0.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (26 November 2009)」

カ インド

【需給状況】

インドの生産量は、過去最高の生産量であった前年度より単収が増加したため、2.0百万トン増加（2.5%）し、過去最高の80.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、モンスーン到来の遅れによるカリフ（雨期）米の減産見通しから小麦の需要が増加すると見込まれるため前年度より5.3百万トン増加（7.6%）し、76.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並の、0.1百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.1百万トン増加し、0.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、4.6百万トン増加（33.3%）し、18.1百万トンとなり、期末在庫率も23.7%（4.6ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、消費量が0.8百万トン下方修正され、輸出量が0.2百万トン下方修正された。また、輸入量が0.1百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が1.0百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2010/11年度の小麦の作付けは10月に開始され、進捗は12月11日現在で21.7百万ヘクタール（対前年同期 0.1百万ヘクタール増）で平年の作付面積の約8割が終了しており概ね順調である。一部地域で土壌水分の不足が懸念されており、天候に注視が必要である。

【貿易情報】

2007年9月から輸出が禁止されたが、2008年9月に種子用の小麦に限り輸出禁止が解除された。なお、2009年7月3日に輸出禁止が一旦条件付きで解除されたが、米の減産見通しから7月13日に加工品を除き輸出が再度禁止された。その後、12月7日に有機小麦について5,000トンの輸出許可がされた。

キ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、豊作であった前年度と比較して収穫面積は増加するものの一部地域の干ばつ等により単収が減少することから、前年度より4.2百万トン減少（▲6.6%）し、59.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.8百万トン増加（4.6%）し、40.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.4百万トン（▲2.1%）減少し、18.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.0百万トン増加（11.9%）し、9.4百万トンとなり、期末在庫率も16.1%（1.4ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の収穫は、10月に概ね終了した。ロシア農業省の発表では、11月11日時点の小麦の収穫量は、乾燥調整後ベースで約58.0百万トンで、豊作であった前年同期の96%である。シベリア地域では作柄が良好であったが、南ウラル、沿ボルガ地方の一部地域で干ばつの影響等から、豊作であった前年度より単収が減少する見込みである。

2010/11年度の冬小麦の作付けは、11月上旬に終了し、その後、概ね生育に適した天候で推移している。

【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア3位（2009/10年度 12.0%））

表-7 インドの小麦需給（市場年度：4月～翌年3月）

（単位：百万トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	75.8	78.6	80.6 (80.6)	-	2.5
消費量	76.4	70.8	76.1 (…)	▲ 0.8	7.6
うち飼料用	0.2	0.1	0.1 (…)	-	0.0
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.3)	▲ 0.2	▲ 50.0
輸 入 量	2.0	0.0	0.1 (T)	0.1	900.0
期末在庫量	5.8	13.5	18.1 (…)	1.0	33.3
期末在庫率	7.6%	19.1%	23.7% (…)	1.6	4.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.00	28.15	27.80 (28.40)	-	▲ 1.2
単収(t/ha)	2.71	2.79	2.90 (2.84)	-	3.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain : World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (26 November 2009)」

（世界の生産量シェア5位（2009/10年度 8.8%） 輸出量シェア4位（2009/10年度 14.4%））

表-8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

（単位：百万トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.4	63.7	59.5 (60.0)	-	▲ 6.6
消費量	37.7	38.9	40.7 (39.2)	-	4.6
うち飼料用	15.1	16.2	18.0 (14.0)	-	11.1
輸 出 量	12.6	18.4	18.0 (19.0)	-	▲ 2.1
輸 入 量	0.4	0.2	0.2 (0.2)	-	0.0
期末在庫量	1.8	8.4	9.4 (10.4)	-	11.9
期末在庫率	3.6%	14.7%	16.1% (17.9%)	-	1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.40	26.65	28.75 (27.60)	-	7.9
単収(t/ha)	2.02	2.39	2.07 (2.17)	-	▲ 13.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain : World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (26 November 2009)」

ク アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、単収が平年並みに回復するものの、作付期の干ばつにより収穫面積は減少するとの予測から、前年度より0.4百万トン減少(▲4.8%)し、8.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加(2.0%)し、5.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、供給量の減少などから3.5百万トン減少(▲58.3%)し、2.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.3百万トン増加(80.5%)し0.7百万トンとなり、期末在庫率も9.6%(5.9ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦については、収穫が開始され、12月17日現在で進捗は38%である。なお、コルドバ州、ブエノスアイレス州西部等で乾燥している地域もあり、単収低下の懸念がある。

【貿易情報】

2009年6月に、輸出業者が生産者から政府公示価格で買い上げることを条件として申告から365日以内に出荷、船積が可能となった。

また、農家は政府の農業政策に抗議しており、アルゼンチンの上院は、8月20日に、大統領が穀物輸出税を設定する権限を1年間延長することを承認したことから、3月に引き続き、8月末に再度ストライキを行った。

なお、9月10日には、政府から、小麦650万トンを国内向けに確保し、超過分については、輸出を自由化することと、年産800トン以下の生産者に対して、輸出税を還付する旨の発表が行われた。今後の情勢に注視する必要がある。

ケ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実産量は、豊作であった前年度と比較して、4～5月の乾燥により単収が低下し、収穫面積が減少すること等から、前年度より5.4百万トン減少(▲20.8%)し、20.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より食料用需要の増加から0.2百万トン増加(1.7%)し、12.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから4.0百万トン減少(▲31.0%)し、9.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.5百万トン(▲16.1%)減少し、2.6百万トンとなり、期末在庫率は12.4%(0.1ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2010/11年度の冬小麦の作付けが、11月上旬には概ね終了した。暖かい天候と降雨があったため、作柄が改善された。

【貿易情報】

2007年11月から輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

(世界の輸出量シェア8位(2009/10年度 2.0%))

表-9 アルゼンチンの小麦需給(市場年度:12月～翌年11月)

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	18.0	8.4	8.0 (8.0)	-	▲ 4.8
消費量	5.1	5.1	5.2 (4.9)	-	2.0
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0
輸 出 量	11.2	6.0	2.5 (2.6)	-	▲ 58.3
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	...
期末在庫量	3.1	0.4	0.7 (0.7)	-	80.5
期末在庫率	18.8%	3.7%	9.6% (9.4%)	-	5.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.00	4.24	2.85 (...)	-	▲ 32.8
単収(t/ha)	3.00	1.98	2.81 (...)	-	41.9

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (26 November 2009)」

(世界の輸出量シェア6位(2008/09年度 7.2%))

表-10 ウクライナの小麦需給(市場年度:7月～翌年6月)

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	13.9	25.9	20.5 (20.0)	-	▲ 20.8
消費量	12.3	11.9	12.1 (12.4)	-	1.7
うち飼料用	3.0	2.9	2.8 (2.7)	-	▲ 3.4
輸 出 量	1.2	13.0	9.0 (8.2)	-	▲ 31.0
輸 入 量	0.3	0.1	0.1 (0.1)	-	42.9
期末在庫量	2.1	3.1	2.6 (1.7)	-	▲ 16.1
期末在庫率	15.3%	12.5%	12.4% (8.4%)	-	▲ 0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.95	7.05	6.85 (6.60)	-	▲ 2.8
単収(t/ha)	2.34	3.67	2.99 (3.03)	-	▲ 18.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (26 November 2009)」